

2 年上巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
4 月	じゅんばんに ならぼう 1 時間（話・聞①） ○言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づくことができる。（知・技(1)ア） ○自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞くことができる。（思・判・表A(1)エ） ■出された課題に応じて、声をかけ合いながら順番に並ぶ。	1	1 1 年間の国語の学習の見通しをもつ。 ・扉の詩を音読したり、目次やP5「くごの学びを見わたそう」を見たりして、上巻の学習への期待感や見通しをもつ。 2 「じゅんばんにならぼう」のやり方を知る。 ・どんな順番で並ぶのか、説明をしっかりと聞いて理解する。 3 教師の話聞いて、実際に並ぶ。 ・何の順番で並ぶのか確認する。 ・自分の場所を見つけるためには、どのような声のかけ合いをすればよいか相談する。 4 正しい順番に並べたかを確認、感想を交流する。 ・「もつとたのしもう」を参考に、さらにさまざまな順番で並ぶことを楽しんでもよい。	【知・技】言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づいている。（(1)ア） 【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞いている。（A(1)エ） 【態】自分が聞きたいことを粘り強く集中して聞き取り、学習課題に沿って声をかけ合い、正しい順番で並ぼうとしている。
4 月	絵を見て かこう つづけて みよう 1 時間（書①） ○第1 学年に配当されている漢字を文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ） ○想像したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア） ○文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見つけることができる。（思・判・表B(1)オ） ■絵に描かれた様子を文章に書く。	1	1 絵を見て気づいたことを発表し合う。 2 絵から分かることを確かめる。 ・どこで ・どんな人が ・どんなことをしているか 3 どの部分の様子を書くかを決め、教科書の例文を参考にして文章にする。 ・1 年生で学習した漢字を使って書く。 4 友達と文章を読み合って感想を伝える。 5 P18「つづけてみよう」を読み、年間を通してひと言日記に取り組む意欲をもち、ノートの書き方について学ぶ。	【知・技】第1 学年に配当されている漢字を文章の中で使っている。（(1)エ） 【思・判・表】 ・「書くこと」において、想像したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。（B(1)ア） ・「書くこと」において、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見つけている。（B(1)オ） 【態】絵の中から進んで書くことを見つけ、これまでの学習をいかして文章を書こうとしている。
4 月	どんな おはなしかを たしかめて、音読しよう ふきのとう 9 時間（読⑨） ◎身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ） ◎場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。（思・判・表C(1)イ） ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。（知・技(1)ク） ■音読を聞き合い、感想を伝え合う。 ☆身近な自然に目を向け、親しみをもつことを促す題材（道徳、生活科） ☆音読の様子を撮影し、見せ合う活動（ICT活用）	1～2 3～5 6 7～8 9	1 学習の見通しをもつ。 ・P19を見て、どのような物語かを想像する。 ・音読して「おもしろいな。」と思ったところを見つけ、友達と比べる。 ・教材文を読み、「といをもとう」「もくひょう」を基に学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 お話の大体を考えながら繰り返し音読する。 3 登場人物とその行動について確かめる。 4 「ふきのとう」が顔を出せた理由や、会話文の音読のしかたについて考える。 5 おもしろいと思ったところを、様子が伝わるように音読し、互いに聞き合い、感想を伝え合う。 6 グループで役割に分かれて音読発表を行い、感想を交流する。 7 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。	【知・技】 ・身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにしている。（(1)オ） ・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。（(1)ク） 【思・判・表】「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。（C(1)イ） 【態】場面の様子を表す言葉を手がかりに粘り強く物語の内容を確認、これまでの学習をいかして音読を工夫し、感想を伝え合おうとしている。
4 月	図書館たんけん 1 時間（知・技①） ◎読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることができる。（知・技(3)エ） ■図書館の本の並べ方の決まりや工夫を見つけ、発表する。 ☆図書館で読みたい本を探し、本の分類を学ぶ教材（図書館活用） ☆書架の様子や本の並べ方の撮影（ICT活用）	1	1 図書館の本の並べ方の決まりや工夫を見つけるという学習課題をもつ。 2 図書館探検に行く。 ・本はどのような工夫をして並べてあるのか、各自で見て回り、気づいたことを共有する。 ・P34「読みたい本をさがすときは」を確認する。 3 P35で提示された本や、各自で見つけた本を決めて、どこにあるのか予想して探す。 4 学習を振り返る。 ・自分の読みたい本を探すときに気をつけることをまとめて発表し合う。	【知・技】読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。（(3)エ） 【態】積極的に図書館の配架や本の並べ方を学び、学習課題に沿って自分の読みたい本を探そうとしている。
4 月	春が いっぱい 2 時間（書②） ◎言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づくことができる。（知・技(1)ア） ○身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ） ○経験したことなどから書くことを見	1 2	1 教科書の絵の中で見たことがあるもの、知っているものについて出し合い、名前を確認する。 2 「はなが さいた」の詩を読む。 3 登校途中や家の周り、校庭や花壇、学級園などで見つけた春を感じるものをカードに書く。 ・絵や写真を添える。 ・見つけたものの名前、いつ、どこで見つけたか。 ・見つけたときに感じたこと。	【知・技】 ・言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づいている。（(1)ア） ・身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにしている。（(1)オ） 【思・判・表】「書くこと」において、経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確

2 年上巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
	つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ■春を感じるものを見つけ、自分の感想を添えた、春のカードを作る。 ☆身近な自然に目を向け、親しみをもつことを促す題材(道徳、生活科) ☆春らしい歌詞や、旋律などを楽しむ活動(音楽) ☆春を感じるものの撮影(ICT活用)		4 書いたカードをみんなで読み合い、感想を交流する。	かめたりして伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) 【態】積極的に、言葉には事物の内容を表す働きがあることに気づき、学習課題に沿って見つけたものをカードに書こうとしている。
4月	思い出して 書こう			
	日記を 書こう 4時間(書④) ◎経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ○言葉には、経験したことを伝える働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア) ■身近な出来事を日記に書く。 ☆学校生活や家庭生活、身近な自然や季節の行事などに目を向けさせる題材(特別活動、生活科)	1～2 3 4	1 P18「つづけてみよう」で書いてきたひと言日記を紹介し合うなどして、学習の見通しをもつ。 2 日記例を基に、日記の書き方を確認する。 ・日付、曜日、天気 ・したこと(いつ・誰が・誰と・何を・どうした) ・見たこと、見つけたもの ・言ったこと、聞いたこと ・思ったこと 3 昨日のことやひと言日記から題材を決め、思い出したことを書き出す。 4 出来事の順序を思い出して日記を書く。 5 書いた日記を読み合い、学習を振り返る。 ・「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。	【知・技】言葉には、経験したことを伝える働きがあることに気づいている。(1)ア) 【思・判・表】「書くこと」において、経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) 【態】進んで経験したことなどから伝えたいことを明確にし、学習の見通しをもって日記を書こうとしている。
4月 ～ 5月	だいじな ことを おとさないように 聞こう			
	ともだちは どごかな 【コラム】声の 出し方に 気を つけよう 5時間(話・聞⑤) ◎共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ◎話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えることができる。(思・判・表A(1)エ) ○音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気づくとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すことができる。(知・技(1)イ) ○伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫することができる。(思・判・表A(1)ウ) ■目的に応じて大事なことをメモしながら聞き取る。 ☆必要なことについて、身近な人と連絡し合う活動(学校生活)	1 2 3 4 5	1 学習の見通しをもつ。 ・音声を聞いて、絵の中から「ゆかさん」を探す。 ・「といをもとう」「もくひょう」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 絵を見てどんな人がいるかを話し合う。 ・手がかりになりそうな言葉や事柄の予想を立てる。 3 話を聞くときに大事なことを考える。 4 絵の中から子どもを選んで友達と探し合う。 ・P44コラム「声の出し方に気をつけよう」を参考に、分かりやすい話し方を練習する。 ・グループで相互に探し合いをする。探し役はメモを見せ合って協力してもよい。 5 探しやすい話し方や聞き方、メモの取り方を発表し合う。 6 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・P44のコラムで音の高さによる言葉の意味の違いを理解する。	【知・技】 ・音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気づくとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。(1)イ) ・共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(2)ア) 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。(A(1)ウ) ・「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えている。(A(1)エ) 【態】自分にとって必要なことを集中して粘り強く聞き取り、これまでの学習をいかして簡潔にメモしようとしている。
5月	じゅんじょに 気を つけて 読もう			
	たんぼぼの ちえ 【じょうほう】じゅんじょ 10時間(知・技①、読⑨) ◎共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ◎時間的な順序を考えながら、内容の大体を捉えることができる。(思・判・表C(1)ア) ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。(知・技(1)ク) ○文章の中の重要な語や文を考えて選り出すことができる。(思・判・表C(1)ウ) ■植物の知恵について書かれている文章を読み、感想を書く。 ☆身近な自然に目を向け、親しみをもつことを促す題材(道徳、生活科)	1～2 3 4～5 6～7 8	1 学習の見通しをもつ。 ・P45を見て、文章の内容を想像したり、たんぼぼについて知っていることを出し合う。 ・教材文を読み、「といをもとう」「もくひょう」を基に学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 たんぼぼの知恵が幾つあるかを考えながら音読する。 ・知恵が幾つあるかを数えることで、何を知恵というかを確かめる。 3 たんぼぼが、いつどんな知恵を働かせているのかを捉える。 ・順序を表す言葉に着目して、たんぼぼの知恵を確かめる。 4 たんぼぼの知恵にはどんなわけがあるのか、文末表現に注意して読み取る。 5 感心したたんぼぼの知恵を選び、なぜそう思ったのか自分の考えを書く。 ・書いたものを友達と読み合い、同じだと思ったことを伝え合う。	【知・技】 ・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。(1)ク) ・共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(2)ア) 【思・判・表】 ・「読むこと」において、時間的な順序を考えながら、内容の大体を捉えている。(C(1)ア) ・「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選り出している。(C(1)ウ) 【態】粘り強く時間的な順序を考えて内容を捉え、学習の見通しをもって読んだ文章の感想を書こうとしている。

令和7年国語科評価規準 第2学年 2 年上巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
		9～10	6 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。 7 P55「じゅんじょ」を読み、説明するときの順序の種類や、効果を確認する。 ・身の回りの出来事や自分の行動などを、順序を考えながら話す。	
5月	ていねいに かんさつして、きろくしよう かんさつ名人に なろう 10時間（書⑩） ◎経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア） ○身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ） ■観察したことを記録する文章を書く。 ☆育てている動植物を観察し、分かったことなどを記録する活動（生活科） ☆身近な動植物の変化や成長の様子への関心を育む題材（道徳、生活科） ☆観察するものを撮影して記録する活動（ICT活用）	1 2～8 9 10	1 学習の見直しをもつ。 ・生き物や植物を育てた経験を振り返り、友達と話し合う。 ・「といをもとう」「もくひょう」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 観察するものを決め、見つけたことや気づいたことをメモして、書く順序を考える。 ・P57「かんさつするときは」を参考にする。 ・観察して見つけたことや気づいたことを、メモを基に友達と尋ね合い、記録しておきたいことをどんな順序で書くか考える。 3 メモを基に観察記録文を書く。 ・P59、60の作例を参考に観察記録文のイメージをもつとともに、記録文を書くときに必要なことを整理する。 ・読む人に伝わるように、書くこととその順序を再度確認したり、P60「かんさつしたことを書くときのことば」を参考にしたりする。 4 書いた文章を友達と読み合い、よいところやよく分かる書き方について伝え合う。 5 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。	【知・技】身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにしている。（(1)オ） 【思・判・表】「書くこと」において、経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして伝えたいことを明確にしている。（B(1)ア） 【態】書くために必要な事柄を進んで集めたり確かめたりして伝えたいことを明確にし、これまでの学習をいかして観察記録文を書くようとしている。
6月	いなばの 白うさぎ 2時間（知・技②） ◎神話の読み聞かせを聞き、我が国の伝統的な言語文化に親しむことができる。（知・技(3)ア） ■神話の読み聞かせを聞き、感想を伝え合う。 ☆郷土への愛着を養う題材（道徳） ☆昔話や神話の本を図書館で探して読む活動（図書館活用）	1 2	1 これまでに読んだり聞いたりした神話や昔話を紹介し合い、教材文に興味をもつ。 2 挿絵からお話の内容を想像し、読み聞かせを聞く。 3 登場人物や出来事、お話の結末を確認し合い、おもしろかったことを伝え合う。 4 P64「この本、読もう」を参考に、図書館で自分の住む地方に伝わる昔話や神話を探して読む。	【知・技】神話の読み聞かせを聞き、我が国の伝統的な言語文化に親しんでいる。（(3)ア） 【態】進んで神話の読み聞かせを聞き、これまでの学習をいかして感想を伝え合おうとしている。
6月	同じ ぶぶんをもつ かん字 2時間（知・技②） ◎第2学年までに配当されている漢字を読むことができるとともに、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ）	1～2	1 P65のイラストを基に、漢字の同じ部分を探し、漢字の意味やつながりについて、考えたことや思ったことを出し合う。 2 P66の例文を音読したり視写したりして、同じ部分を見つけ、つながりを考える。 3 P154「これまでにならったかん字」を活用し、同じ部分をもつ漢字を探す。	【知・技】第2学年までに配当されている漢字を読み、文や文章の中で使っている。（(1)エ） 【態】積極的に第2学年までに配当されている漢字の読み書きに取り組み、学習課題に沿って、同じ部分をもつ漢字を見つけようとしている。
6月	お話を 読み、すきな ところを つたえよう スイミー 9時間（読⑨） ◎場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。（思・判・表C(1)エ） ○身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ） ○場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。（思・判・表C(1)イ） ■物語を読み、好きな場面について伝え合う。	1～2 3～4 5～7 8	1 学習の見直しをもつ。 ・P67を見て、どのような物語かを想像する。 ・教材文を読み、「といをもとう」「もくひょう」を基に学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 教材文を読み、五つの場面を確認する。 ・それぞれの場面の出来事を確認する。 3 言葉に着目して場面の様子を思い浮かべる。 ・スイミーがしたことや見たもの、思ったことを表す言葉を見つねながら読む。 ・たとえを使った描写のおもしろさを想像しながら読む。 ・それぞれの場面でのスイミーの様子が伝わるように、音読する。 4 好きな場面とその理由を書き、友達と伝え合う。 ・伝え合うときは、P79の「話し方のれい」を参考にする。	【知・技】身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにしている。（(1)オ） 【思・判・表】 ・「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。（C(1)イ） ・「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。（C(1)エ） 【態】粘り強く場面の様子に着目して登場人物の行動を想像し、学習課題に沿って自分の好きな場面を伝え合おうとしている。

令和7年国語科評価規準 第2学年

2 年上巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
		9	5 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。	
6月	かん字の ひろば① 2時間（書②） ◎第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ） ○助詞の「は」「へ」「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)ウ） ・語と語との続き方に注意することができる。（思・判・表B(1)ウ） ■絵を説明する文を書く。	1～2	1 P154「これまでにならなかったかん字」を用いて教材中の漢字の読み方の復習をする。 2 P81の絵や「れい」を見ながら、絵の中の言葉を使って、島の様子を表す文を書く。 3 書いた文を友達と読み合う。	【知・技】 ・助詞の「は」「へ」「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して、文や文章の中で使っている。（(1)ウ） ・第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。（(1)エ） 【思・判・表】「書くこと」において、語と語の続き方に注意している。（B(1)ウ） 【態】進んで第1学年に配当されている漢字を使い、これまでの学習をいかして絵を説明する文を書こうとしている。
6月	【じょうほう】メモをとるとき 3時間（書③） ◎経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア） ○言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づくことができる。（知・技(1)ア） ☆気づいたことや分かったことをメモする活動（生活科、学校生活）	1 2～3	1 学習の見通しをもつ。 ・メモの必要性、有効性について経験を出し合う。 2 P83の例を基に、メモを取るときに気をつけることを確認する。 3 実際に、学校のことを家の人などに知らせるためのメモを取る。 ・自分で読み返す。 ・書いたメモを友達と見せ合い、お互いのよいところを伝え合う。 4 学習を振り返る。 ・メモを取るときに気をつけたいことをまとめ	【知・技】言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づいている。（(1)ア） 【思・判・表】「書くこと」において、経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。（B(1)ア） 【態】積極的に必要な事柄を集め、これまでの学習をいかして知らせたいことをメモに取ろうとしている。
6月 ～ 7月	組み立てを 考えて 書き、知らせよう こんな もの、見つけたよ 【コラム】丸、点、かぎ 10時間（書⑩） ◎長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」「へ」「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)ウ） ◎自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えることができる。（思・判・表B(1)イ） ■自分が見つけた「いいな」と思うものを友達に伝える文章を書く。 ☆身近な地域の特色や行事、施設などに目を向けさせる題材（生活科） ☆見つけたものを撮影する活動（ICT活用）	1 2～4 5～6 7～9 10	1 学習の見通しをもつ。 ・生活科の町探検などで見つけたものを共有し、いいなと思ったものを話し合う。 ・「といをもとう」「もくひょう」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 P85のメモ例を参考に、見つけたものや尋ねて分かったことなどをメモに取る。 ・P82「メモをとるとき」の学習内容を活用する。 ・メモを見直して、見つけたもののよさを伝えるのに必要なことを付け加える。 3 メモを基に、文章の組み立てを考える。 ・P86の組み立て例や、「組み立てを考えるときは」を参考に、「はじめ」「中」「おわり」にそれぞれ何を書くかを考える。 ・P163の「図をつかって考えよう」を活用し、順序を入れ替えながら確認する。 4 組み立てメモを基に文章を書き、読み返して推敲する。 ・P89コラム「丸、点、かぎ」を参考に、書いたものを読み返し、間違いなどを正す。 5 書いた文章を読み合い、感想を伝え合う。 ・初めて知ったことや分かりやすかったところなどを伝え合う。 6 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。	【知・技】長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」「へ」「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して、文や文章の中で使っている。（(1)ウ） 【思・判・表】「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。（B(1)イ） 【態】事柄の順序に沿った構成を粘り強く考え、学習の見通しをもって、読み手に分かりやすく伝える文章を書こうとしている。
7月	あいての考えを引き出す しつもんをしよう あったらしいな、こんなもの 7時間（話・聞⑦） ◎身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ） ◎話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつことができる。（思・判・表A(1)エ） ○身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。（思・判・表	1 2 3～5	1 学習の見通しをもつ。 ・あったらしいなと思うものを考える。 ・「といをもとう」「もくひょう」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 あったらしいなと思うものを考えて、絵に描く。 ・描いた絵に簡単な説明をメモしておくとい。 3 友達がどんなものを考えているのか、詳しく知るための質問のしかたを考える。 ・P92「しつもんをするときは」や動画を参考に、どんなことを質問すれば効果的か考える。	【知・技】身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにしている。（(1)オ） 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。（A(1)ア） ・「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感

令和7年国語科評価規準 第2学年

2 年上巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
	A(1)ア) ■質問をし合うことを通して考えをまとめる。	6～7	4 友達と質問し合って詳しく考える。 ・働きや作りについて質問されて答えたことは、自分の絵に付け加えておく。 5 考えたものをグループで発表し合う。 6 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。	想をもっている。(A(1)エ) 【態】粘り強く話し手が知らせたいことを落とさないように聞き、学習課題に沿って質問をし合って考えをまとめようとしている。
7月	夏がいっぱい 2時間(書②) ◎言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア) ○身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ) ○経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ■夏を感じるものを見つけ、自分の感想を添えた、夏のカードを作る。 ☆身近な自然に目を向け、親しみをもつことを促す題材(道徳、生活科) ☆夏らしい歌詞や、旋律などを楽しむ活動(音楽) ☆夏を感じるものの撮影(ICT活用)	1 2	1 教科書の絵の中で見たことがあるもの、知っているものについて出し合い、名前を確認する。 2 「みんな」の詩を読む。 3 登校途中や家の周り、校庭や花壇、学級園などで見つけた夏を感じるものをカードに書く。 ・絵や写真を添える。 ・見つけたものの名前、いつ、どこで見つけたか。 ・見つけたときに感じたこと。 4 書いたカードをみんなで読み合い、感想を交流する。	【知・技】 ・言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づいている。(1)ア) ・身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにしている。(1)オ) 【思・判・表】「書くこと」において、経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) 【態】積極的に、言葉には事物の内容を表す働きがあることに気づき、学習課題に沿って見つけたものをカードに書こうとしている。
7月	本はともだち お気に入りの本をしょうかいしよう ミリーのすてきなぼうし 6時間(読⑥) ◎読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることができる。(知・技(3)エ) ○文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。(思・判・表C(1)カ) ■お気に入りの本を紹介し合う。 ☆お気に入りの本を探す活動(図書館活用)	1 2 3～4 5～6	1 学習の見通しをもつ。 ・「お気に入りの本をしょうかいしよう」という学習課題を知り、学習の進め方を確認する。 ・読書カードなどを使ってこれまでの読書生活を振り返り、どんな本が好きかを考える。 2 友達に紹介したい本を選ぶ。 ・学校図書館などで、実際に本を見ながら選ぶ。 3 紹介メモの書き方を確かめる。 ・「ミリーのすてきなぼうし」を読む。 ・「ミリーのすてきなぼうし」を紹介するメモ(P99)を参考に、書き方を確かめる。 4 自分の選んだ本で紹介メモを書く。 5 P100の紹介例を参考に、友達と本を紹介し合う。 6 学習を振り返る。 ・「読書にしたいむために」で、本の読み方を押さえる。	【知・技】読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。(3)エ) 【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで、感じたことや分かったことを共有している。(C(1)カ) 【態】進んで読書に親しみ、学習課題に沿ってお気に入りの本を紹介しようとしている。
9月	雨のうた 2時間(読②) ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。(知・技(1)ク) ○詩を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。(思・判・表C(1)カ) ■様子を想像しながら音読して、詩を楽しむ。	1 2	1 雨のイメージを出し合い、音を想像する。 2 詩を音読し、好きなどころについて話し合う。 3 好きなどころのよさが伝わるように、詩を音読する。 4 友達の音読について、よかったところを伝え合う。	【知・技】語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。(1)ク) 【思・判・表】「読むこと」において、詩を読んで感じたことや分かったことを共有している。(C(1)カ) 【態】粘り強く語のまとまりや言葉の響きに気をつけて音読し、これまでの学習をいかして詩を楽しんで読もうとしている。
9月	ことばでみちあんない 3時間(話・聞③) ◎共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ◎相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えることができる。(思・判・表A(1)イ) ○話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えることができる。(思・判・表A(1)エ) ■友達と道案内をし合う。	1 2 3	1 P116の「みどりさん」の道案内のしかたについて考える。 ・分かりにくいところとその理由を話し合う。 ・自分だったらどんな言葉を使って案内するかを考え、分かりやすい説明のポイントを見つける。 ・友達と道案内を聞いて地図をたどってみる。案内役を交代して何回か話す。 2 グループで道案内をする。 ・実際の場所を目的地にして、道案内をしてみてもよい。 3 学習を振り返る。 ・「たいせつ」で身につけた力を押さえる。	【知・技】共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(2)ア) 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えている。(A(1)イ) ・「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えている。(A(1)エ) 【態】話す事柄の順序を粘り強く考え、学習課題に沿って相手を目的地に導く道案内をしようとしている。
9月	みの回りのものを読もう 2時間(読②)	1	1 P118の写真や絵を見て、身の回りにある標識や看板、ちらしなどの媒体を思い出す。	【知・技】言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づいてい

2 年上卷

— 1 —

令和7年国語科評価規準 第2学年
2 年上巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
			4 「いろはがるた」や地域に伝わるかるたなどを用いて、かるた遊びをする。	
10月	なかまのことばとかん字 2時間（知・技②） ◎身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ） ○第2学年までに配当されている漢字を読み、漸次書くことができる。（知・技(1)エ）	1～2	1 P138-139の言葉を使って、仲間の言葉と漢字を確かめる。 2 グループで仲間の言葉を集め、言葉の仲間分けクイズを作るなどして交流する。 ・漢字を使って書けるものは、漢字を使う。	【知・技】 ・第2学年までに配当されている漢字を読み、漸次書いている。（(1)エ） ・身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにしている。（(1)オ） 【態】進んで、言葉には意味によるまとまりがあることに気づき、学習課題に沿って仲間の言葉を集めよう
10月	かん字のひろば③ 2時間（書②） ◎第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ） ○助詞の「は」「へ」「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して、文の中で使うことができる。（知・技(1)ウ） ・語と語の続き方に注意することができる。（思・判・表B(1)ウ） ■絵を説明する文章を書く。	1～2	1 P154「これまでにになったかん字」を用いて教材中の漢字の読み方の復習をする。 2 P140の絵や「れい」を見ながら、絵の中の言葉を使って小学校の様子を文に書く。 ・文を作る際、「は」「へ」「を」が正しく使えているかを確認する。 3 書いた文や文章を友達と読み合う。	【知・技】 ・助詞の「は」「へ」「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して、文の中で使っている。（(1)ウ） ・第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。（(1)エ） 【思・判・表】「書くこと」において、語と語の続き方に注意している。（B(1)ウ） 【態】進んで第1学年に配当されている漢字を使い、これまでの学習をいかして絵を説明する文章を書こうとしている。

2 年下巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
10月	自分とくらべて読み、とうじょうじんぶつに手紙を書く お手紙 12時間（読⑫） ◎身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ） ◎文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。（思・判・表C(1)オ） ○文の中における主語と述語との関係に気づくことができる。（知・技(1)カ） ○場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。（思・判・表C(1)エ） ■物語を読み、登場人物に向けて手紙を書く。 ☆同じシリーズの本を図書館で探して読む活動（図書館活用）	1～2 3～5 6～8 9～10 11～12	1 扉の詩を音読したり、目次やP5「国語の学びを見わたそう」を見たりして、下巻の学習への期 2 学習の見通しをもつ。 ・P13を見て、登場人物に何が起こるかを考える。 ・教材文を読み、「といをもとう」「もくひょう」 3 教材文を読み、物語の大体を捉える。 ・各場面での登場人物の様子や行動を、言葉や挿絵を手がかりにしてつかむ。 4 登場人物の行動の理由、発言の様子や考えていることを、言葉や挿絵を手がかりにして推測する。 ・「がまくん」がどのように、「ああ。」「いいお手紙だ。」と言ったのか、「がまくん」に 5 それぞれの登場人物を自分と比べて考える。 ・自分だったら、何をしたり、言ったりするか。 6 「がまくん」か「かえるくん」のどちらかの登場人物を選んで、手紙を書く。 7 友達と手紙を読み合い、交流する。 8 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。	【知・技】 ・身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにしている。（(1)オ） ・文の中における主語と述語との関係に気づいている。（(1)カ） 【思・判・表】 ・「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。（C(1)エ） ・「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて感想をもち、学習課題に沿って、登場人物に手紙を書こうとしている。
10月	主語と述語に 気をつけよう 2時間（知・技②） ◎文の中における主語と述語との関係に気づくことができる。（知・技(1)カ）	1 2	1 「といをもとう」を基に、絵の男の子がどのように言えばよかったのかを話し合う。 ・主語と述語の役割を知る。 ・例文や「お手紙」を基に、主語と述語の定義を確認する。 2 P30の課題に取り組む。 ・いろいろな文の主語と述語を見つける。 3 最近の出来事について主語と述語を意識して話したり書いたりし、友達と交流する。 4 「いかそう」を基に学習を振り返る。	【知・技】文の中における主語と述語との関係に気づいている。（(1)カ） 【態】積極的に、主語と述語の関係に気づき、これまでの学習をいかして主語と述語に気をつけようとしている。
10月	かん字の読み方 2時間（知・技②） ◎第2学年までに配当されている漢字を読むことができるとともに、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ）	1 2	1 例文を読んで、一つの漢字でも複数の読み方があることを知る。 ・「九」を「八」に、「日」を「月」に変えるなどして確認するとよい。 2 P32の「上」と「下」の読み方を確認する。 ・多くの読み方がある「上」「下」が含まれる文を音読したり視写したりする。 3 送り仮名についてその役割を知る。 ・P33の課題に取り組む。 ・他にも複数の送り仮名がある漢字を探し、漢字に対する理解や興味を深める。	【知・技】第2学年までに配当されている漢字を読んでいるとともに、文や文章の中で使っている。（(1)エ） 【態】進んで第2学年までに配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、漢字の異なる読み方に気をつけて読もうとしている。
10月	秋がいっぱい 2時間（書②） ◎言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づくことができる。（知・技(1)ア） ○身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ） ○経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア） ■秋を感じる言葉や詩を見つけ、自分の感想を添えた、秋のカードを作る。 ☆身近な自然に目を向け、親しみをもつことを促す題材（道徳、生活科） ☆秋の風情が感じられる曲や歌を楽しむ（音楽・図工） ☆秋を感じるものの撮影（ICT活用）	1 2	1 教科書の絵の中で見たことがあるもの、知っているものについて出し合い、名前を確認する。 2 「やま」の詩を読む。 3 登校途中や家の周り、校庭や花壇、学級園などで見つけた秋を感じるものをカードに書く。 ・絵や写真を添える。 ・見つけたものの名前、いつ、どこで見つけたか。 4 書いたカードをみんなで読み合い、感想を交流する。	【知・技】 ・言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づいている。（(1)ア） ・身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにしている。（(1)オ） 【思・判・表】「書くこと」において、経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。（B(1)ア） 【態】積極的に、言葉には事物の内容を表す働きがあることに気づき、学習課題に沿って見つけたものをカードに書こうとしている。
10月 ～ 11月	みんなで話をつなげよう そうだんにのってください 8時間（話・聞⑧） ◎共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。（知・技(1)イ）	1	1 学習の見通しをもつ。 ・友達と相談してよかったことを出し合う。 ・「といをもとう」「もくひょう」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。	【知・技】共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。（(2)ア） 【思・判・表】 「話すこと」の聞き方において、

2 年下巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
	できる。(知・技(2)ア) ◎互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなぐことができる。(思・判・表A(1)オ) ○身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。(思・判・表A(1)ア) ■グループで相談する。 ☆互いの困りごとを解決するために協力する題材(学級活動、生活科) ☆話し合いの様子を撮影し、自分や相手の話し方を見返す活動(ICT活用)	2～3 4～7 8	2 話題を決める。 ・友達に相談してみたいことを、P37を参考に出し合う。 ・話し合いで解決できそうな相談事を選ぶ。 3 話し合いの進め方を確かめる。 ・P38の「話し合いをすすめるときは」や動画資料を参考にする。 4 グループで話し合う。 ・P38-39の話し合いの例を参考にして、話し合うときに気をつけるとよいことを考える。 ・順番に相談者になって話し合う。 ・「みんなで話し合うときは」を参考にする。 ・「話をつなげるときのことば」を意識して使う。 5 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。	・「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。(A(1)ア) ・「話すこと・聞くこと」において、互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつないでいる。(A(1)オ) 【態】積極的に相手の発言を受けて話をつなぎ、学習の見通しをもって話し合おうとしている。
11月	せつめいのしかたに 気をつけて読み、それをいかして書こう 紙コップ花火の作り方 おもちゃの作り方をせつめいしよう 14時間(書⑧、読⑥) ◎共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ◎語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ◎文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。(思・判・表C(1)ウ) ○身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ) ○時間的な順序や事柄の順序を考えながら、内容の大体を捉えることができる。(思・判・表C(1)ア) ■おもちゃの作り方を説明する文章を読み、それをいかして書く。 ☆おもちゃを作る活動(図工・生活科) ☆説明するおもちゃの写真の撮影(ICT活用)	1～2 3～5 6 7 8～10 11～12 13 14	1 学習の見通しをもつ。 ・P41を見て、自分が作ったことのあるおもちゃや、紙コップ花火はどのように作るのか、予想して話し合う。 ・教材文を読み、「といをもとう」「もくひょう」を基に学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 教材文を読んで、文章がどんなまとまりに分かれているかを確かめて、紙コップ花火を作る。 3 紙コップ花火を作るときに気をつけた言葉を交流する。 4 それぞれの写真が、文章のどの部分と合わせて読むとよいかを確かめる。 5 分かりやすく説明するための筆者の工夫を確かめ、自分が使ってみたい工夫は何かを考える。 6 筆者の説明の工夫を交流し、学習を振り返る。 ・「たいせつ」で身につけた力を押さえる。 7 P48「といをもとう」「もくひょう」を基に、学習のめあてを確かめる。 8 説明するおもちゃを決める。実際におもちゃを作るなどして、説明に必要な情報を集める。 9 文章全体の組み立てと、どんな順序で説明するかを考える。 10 おもちゃの作り方を説明する文章を書く。 ・P50の作例から工夫しているところを見つけ、それを参考に言葉を考えて書く。 11 友達どうしでお互いの説明を読み、感想を交流 12 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。	【知・技】 ・身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにしている。(1)オ) ・共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(2)ア) 【思・判・表】 ・「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) ・「読むこと」において、時間的な順序や事柄の順序を考えながら、内容の大体を捉えている。(C(1)ア) ・「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。(C(1)ウ) 【態】進んで文章の中の語や文を選び出したり、事柄の順序に沿って分かりやすく伝える書き表し方を工夫したり、学習の見通しをもっておもちゃの作り方を説明する文章を書こうとしている。
11月	にたいみのことば、はんたいのいみのことば 2時間(知・技②) ◎身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ)	1 2	1 「といをもとう」を基に、意味が似ている言葉や、意味が反対の言葉を出し合う。 2 似た意味の言葉について理解し、P52の課題に取り組み、似た意味の言葉を集める。 3 反対の意味の言葉について理解し、P53の課題に取り組み、反対の意味の言葉を集める。 4 似た意味の言葉や、反対の意味の言葉の組を作り、友達と見せ合う。 ・P165「ことばのたからばこ」を参考にしてもよい。	【知・技】身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにしている。(1)オ) 【態】進んで言葉には意味によるまとまりがあることに気づき、学習課題に沿って、似た意味の言葉や反対の意味の言葉の組を作ろうとしている。
11月	せかいーの話 1時間(読①) ◎昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しむことができる。(知・技(3)ア) ○文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。(思・判・表C(1)オ) ■昔話の読み聞かせを聞く。	1	1 題名や挿絵から、どんなお話なのかを想像す 2 挿絵でお話の筋を追いながら、読み聞かせを聞いて 3 いちばんおもしろいと思ったところを友達と伝え合う。	【知・技】昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞き、我が国の伝統的な言語文化に親しんでいる。(3)ア) 【思・判・表】「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。(C(1)オ) 【態】進んで昔話の読み聞かせを聞いて伝統的な言語文化に親しみ、これまでの学習をいかして、おもしろ
11月	かん字のひろば④ 2時間(書②)	1～2	1 P158「これまでにならなかったかん字」を用いて教材中の漢字の読み方の復習をする。	【知・技】第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っ

令和7年国語科評価規準 第2学年

2 年下巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
	◎第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ) ・語と語の続き方に注意することができる。(思・判・表B(1)ウ) ■数を表す言葉を使って、算数の問題を作って書く。 ☆足し算や引き算の問題作り (算数)		2 P56の絵や「れい」を見ながら、絵の中の言葉を使って、算数の問題を作る。 ・問題の書き方を確かめる。 ・「は」「へ」「を」や句読点の使い方に気をつける。 ・数詞の存在に気づき、それを用いて書く。 3 作った問題を友達と読み合う。	ている。(1)エ) 【思・判・表】「書くこと」において、語と語の続き方に注意している。(B(1)ウ) 【態】進んで第1学年に配当されている漢字を使い、これまでの学習をいかして文章を書こうとしている。
11月 ～ 12月	思いうかべたことをもとに、お話をしようかしよう みきのたからもの 10時間 (読⑩) ◎場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。(思・判・表C(1)エ) ○文の中における主語と述語との関係に気づくことができる。(知・技(1)カ) ○読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることができる。(知・技(3)エ) ○場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。(思・判・表C(1)イ) ■物語を読み、あらすじをまとめて紹介する文章を書く。 ☆教科書で紹介されている本を参考に、楽しく読める本を図書館で探して読む活動 (図書館活用)	1～2 3～4 5～7 8 9 10	1 学習の見通しをもつ。 ・P57を見て、カードの持ち主や「みき」の宝物は何かを予想する。 ・教材文を読み、「といをもとう」「もくひょう」を基に学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 教材文を読み、あらすじをまとめる。 ・誰が何をしたか、どんな出来事が起こったかを確かめる。 ・登場人物の様子や行動を、言葉や挿絵を手がかりにして捉える。 3 P70「①ことば」を手がかりに、登場人物の行動について、その理由や言い方、様子を想像したり考えたりする。 4 P71の文章例を参考に、家の人に「みきのたからもの」を紹介する文章を書く。 ・あらすじと、自分が好きなところとその理由が伝わるように書く。 5 書いた文章を友達と読み合い、いいなと思うところを伝え合う。 6 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。	【知・技】 ・文の中における主語と述語との関係に気づいている。(1)カ) ・読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。(3)エ) 【思・判・表】 ・「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。(C(1)イ) ・「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(C(1)エ) 【態】登場人物の様子を具体的に想像することに積極的に取り組み、学習の見通しをもってお話を紹介する文章を書こうとしている。
12月	組み立てを考えて、お話を書こう お話のさくしやになろう 10時間 (書⑩) ◎文の中における主語と述語との関係に気づくことができる。(知・技(1)カ) ◎自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えることができる。(思・判・表B(1)イ) ■絵から想像を広げて物語を書く。	1 2～3 4～5 6～8 9 10	1 学習の見通しをもつ。 ・これまで学習してきた物語教材を振り返ったり、自分が好きなお話のあらすじを友達に紹介したりする。 ・「といをもとう」「もくひょう」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 教科書の絵を見て、どんな出来事が起こるかを考えて書き出す。 ・P75の絵や「お話を考えるときは」を参考にする。 3 考えたお話を、まとまりに分けて友達に話す。 ・「組み立てのれい」を見て、まねしてみたいと思うところを考える。 ・P76「組み立てを考えるときは」を参考に、「はじめ」「中」「おわり」のまとまりで考える。 ・P77「友だちの考えたお話を聞いたときは」を参考に、友達どうしでアドバイスを合 4 友達のアドバイスをいかして、お話を書く。 ・P78下段を参考に ・書いたら、声に出して読んでみる。その際、P29「主語と述語に気をつけよう」で学んだことをいかす。 ・最後に題名をつける。 5 できたお話を読み合って、おもしろいところや、言葉の使い方や気づいたことなどを伝え合う。 6 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。	【知・技】文の中における主語と述語との関係に気づいている。(1)カ) 【思・判・表】「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。(B(1)イ) 【態】事柄の順序に沿って粘り強く構成を考え、学習課題に沿って、物語を書こうとしている。
12月	冬がいっぱい 2時間 (書②) ◎言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア) ○身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ)	1 2	1 教科書の絵の中で見たことがあるもの、知っているものについて出し合い、名前を確認する。 2 「ゆき」の詩を読んだり、歌ったりして楽しむ。 3 登校途中や家の周り、校庭や花壇、学級園などで見つけた冬を感じるものをカードに書く。 ・絵や写真を添える。 ・見つけたものの名前、いつ、どこで見つけたか。 4 見つけたものをカードに貼る。	【知・技】 ・言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づいている。(1)ア) ・身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにしている。(1)オ) 【思・判・表】「書くこと」において、経験したことなどから書くこと

令和7年国語科評価規準 第2学年

2 年下巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
	○経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア） ■冬を感じる言葉や詩を見つけ、自分の感想を添えた、冬のカードを作る。 ☆身近な自然に目を向け、親しみをもつことを促す題材（道徳、生活科） ☆冬の季節感が感じられる曲や歌を楽しむ活動（音楽） ☆冬を感じるものの撮影（ICT活用）		4 書いたカードをみんなで読み合い、感想を交流する。 ・これまでに書きためたカードを読み合ってもよい。	を見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。（B(1)ア） 【態】積極的に、言葉には事物の内容を表す働きがあることに気づき、学習課題に沿って見つけたものをカードに書こうとしている。
1月	ねこのこ おとのはなびら はんたいことば 2時間（読②） ◎詩を読んで、感じたことや分かったことを共有することができる。（思・判・表C(1)カ） ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。（知・技(1)ク） ■詩を楽しんで読み、お気に入りの詩をカードに書いて交流する。 ☆友達に贈る詩を図書館で探す活動（図書館活用）	1 2	1 詩の多様な楽しみ方を見つけるという学習課題を確認する。 2 様子を思い浮かべたり、言葉の響きを楽しんだりしながら詩を読み、いいと思う書き方を見 3 友達に贈る詩を図書館などで探す。 4 詩と、その詩を選んだ理由をカードに書き、贈り合う。	【知・技】語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。（(1)ク） 【思・判・表】「読むこと」において、詩を読んで、感じたことや分かったことを共有している。（C(1)カ） 【態】詩を読んで感じたことを進んで共有し、学習課題に沿って詩を紹介しようとしている。
1月	かたかなで書くことば 2時間（書②） ◎片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文の中で使うことができる。（知・技(1)ウ） ・語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。（思・判・表B(1)ウ） ■絵と対応する文を書く。	1 2	1 「といをもとう」を基に、普段の生活でどのようにに平仮名と片仮名を使い分けているのか、違 2 片仮名で表記する言葉の種類を知り、種類ごとに言葉集めをする。 3 P85の絵の中の言葉を確かめ、それらを使った文を作り、友達とレストランの様子を説明し合う。	【知・技】片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文の中で使っている。（(1)ウ） 【思・判・表】「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。（B(1)ウ） 【態】積極的に、片仮名で書く語の種類を知り、これまでの学習をいかして、片仮名を使って文を書こうと
1月	ことばを楽しもう 1時間（知・技①） ◎長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づくことができる。（知・技(3)イ） ■言葉遊びを楽しむ。	1	1 これまでに経験した言葉遊びを思い出す。 2 折句の作り方を理解し、五十音や、自分の名前の頭文字など入れた文を作る。 3 回文のおもしろさを知り、簡単な文を作ってみる。	【知・技】長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づいている。（(3)イ） 【態】積極的に、言葉の豊かさに気づき、学習課題に沿って言葉遊びを楽しもうとしている。
1月	だいじなことばに気をつけて読み、分かったことを知らせよう ロボット 12時間（読⑩） ◎読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることができる。（知・技(3)エ） ◎文章を読んで、感じたことや分かったことを共有することができる。（思・判・表C(1)カ） ○文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。（思・判・表C(1)ウ） ■ロボットについて説明する文章を読み、考えたことを伝え合う。 ☆ロボットを紹介している本を、図書館で探して読む活動（図書館活用） ☆ロボットについてのインターネット検索（ICT活用）	1～2 3～7 8～9 10～11 12	1 学習の見直しをもつ。 ・P87を見て、文章の内容を想像したり、見たことのあるロボットについて出し合ったりする。 ・教材文を読み、「といをもとう」「もくひょう」を基に学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 ロボットについてどのようなことを説明しているのかを確かめる。 3 ロボットがどんなときに何をして助けてくれるのか、大事な言葉に着目して考える。 ・大事だと思う言葉を見つけてノートに書く。 4 P97「もっと読もう」と併せて読み、他にどんなロボットがあったらいいか、自分の考えとその理由を書き、友達と交流する。 5 ロボットについて書かれた本を読む。 ・P96「この本、読もう」を参考にする。 6 あったら助かると思うロボットを選び、P95「②本を読んで、せつめいする」を参考にしながら友達に説明する。 7 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で、単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。	【知・技】読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。（(3)エ） 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。（C(1)ウ） ・「読むこと」において、文章を読んで、感じたことや分かったことを共有している。（C(1)カ） 【態】文章を読んで、感じたことや分かったことを進んで共有し、学習の見直しをもって、本を読んで分かったことを説明しようとしている。
1月	ことばについて考えよう ようすをあらわすことば 4時間（知・技①、書③） ◎身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにすることができ	1～2	1 学習の見直しをもつ。 ・P98を読み、「といをもとう」を基に、ロボロが雨の様子を、友達にどのように伝えればよかったかを考える。	【知・技】 ・言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づいている。（(1)ア） 【態】身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにすることができ

2 年下卷

- 12 -

2 年下卷

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
3月	スーホの白い馬 14時間（読④） ◎文章を読んで、感じたことや分かったことを共有することができる。 （思・判・表C(1)カ） ○身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ） ○共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。（知・技(2)ア） ○場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。（思・判・表C(1)エ） ■物語を読み、最も心を動かされたことについて、感想を交流する。 ☆世界の文化や風土などに親しむ題材（道徳）	1～2 3～10 11～13 14	1 学習の見通しをもつ。 ・P111を見て、「スーホ」と「白い馬」の関係进行想像する。 ・教材文を読み、「といをもとう」「もくひょう」を基に学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 教材文を読み、場所、登場人物、主な出来事を確かめ、あらすじをつかむ。 3 言葉を手がかりに登場人物の行動の様子や心情を想像する。 ・P129「えらんで読みふかめよう」の中から読み深める観点を決めて考える。 ・同じ観点で考えた友達と比べる。 ・他の観点で考えた友達の意見を聞き合う。 4 このお話でいちばん心を動かされた場面とその理由を書く。 5 書いたことをグループで話して感想を交流する。 ・P129「話し方のれい」や、P165「ことばのたね」を読む。 6 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。	【知・技】 ・身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにしている。（(1)オ） ・共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。（(2)ア） 【思・判・表】 ・「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。（C(1)エ） ・「読むこと」において、文章を読んで、感じたことや分かったことを共有している。（C(1)カ） 【態】文章を読んで感じたことや分かったことを進んで共有し、学習課題に沿って、最も心を動かされたことを伝え合おうとしている。
3月	かん字の広場⑤ 2時間（書②） ◎第1学年に担当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ） ○文の中における主語と述語との関係に気づくことができる。（知・技(1)カ） ・語と語との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。（思・判・表B(1)ウ） ■絵の様子を説明する文を書く。	1～2	1 P158「これまでにならなかったかん字」を用いて教材中の漢字の読み方の復習をする。 2 P131の絵や「れい」を見ながら、絵の中の言葉を使って公園の様子を文に書く。 ・主語と述語のつながりに気をつける。 3 書いた文を友達と読み合う。	【知・技】 ・第1学年に担当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。（(1)エ） ・文の中における主語と述語との関係に気づいている。（(1)カ） 【思・判・表】「書くこと」において、語と語の続き方に注意しながら内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。（B(1)ウ） 【態】進んで第1学年に担当されている漢字を使い、これまでの学習をいかして絵を説明する文を書こうとしている。
3月	組み立てを考えて、はっぴょうしよう 楽しかったよ、二年生 8時間（話・聞⑧） ◎音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気づくとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すことができる。（知・技(1)イ） ◎相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えることができる。（思・判・表A(1)イ） ○丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れることができる。（知・技(1)キ） ○伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫することができる。（思・判・表A(1)ウ） ■心に残ったことを発表する。 ☆1年間の生活を振り返り、心に残った経験などを紹介する活動（特別活動・生活科） ☆1年間を振り返り、自分の成長を実感させる題材（生活科） ☆練習時の様子の撮影（ICT活用）	1 2～3 4～6 7 8	1 学習の見通しをもつ。 ・写真や学年だより、作った作品などを基に、2年生の4月から3月までの出来事を思い出す。 ・「といをもとう」「もくひょう」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 1年間の学校生活を振り返り、話すことを決める。 ・たくさんの思い出の中から、いちばん伝えたい話題を選ぶ。 ・したこと、思ったこと、友達が言ったことなどについて話し合う。 3 発表の組み立てを考えて原稿を書く。 ・P134の組み立て例を参考に組み立て方を確認、どんな順序で話せばよく伝わるかを考えて、「はじめ」「中」「おわり」の組み立てで発表メモを作る。 4 発表のしかたを考えて練習する。 ・話すときの姿勢や視線 ・声の大きさや話す速さ 5 グループの中で発表する。 ・心に残ったことやよかったところを伝え合う。 6 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。	【知・技】 ・音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気づくとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。（(1)イ） ・丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れている。（(1)キ） 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えている。（A(1)イ） ・「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。（A(1)ウ） 【態】行動したことや経験したことに基づいて話す事柄の順序を粘り強く考え、これまでの学習をいかして発表しようとしている。

2 年下巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
3月	二年生をふりかえって 1時間（書①） ○言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づくことができる。（知・技(1)ア） ○経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア） ■1年間の国語の学習活動を振り返って書く。	1	1 1年間の学びを振り返り、がんばったことや、できるようになったこと、分かるようになったこと、楽しかったことを確かめる。 ・P138「『たいせつ』のまとめ」を参考にする。 ・教科書の空欄に、振り返って思ったことや考えたことを丁寧に書く。 ・書いたものを友達と見せ合い、思ったことを伝え合う。	【知・技】言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づいている。（(1)ア） 【思・判・表】「書くこと」において、経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして伝えたいことを明確にしている。（B(1)ア） 【態】進んで、経験したことなどから書くために必要な事柄を集めたり確かめたりし、これまでの学習をいかして、1年間の振り返りを書く